

めぐみイエス・キリスト教会

2020年5月17日(日)第三主日礼拝
週報「通算第507号」



2020年標題聖句

第Iテサロニケ5章16節~18節

《いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。》

第一礼拝(各家庭にて)	毎週日曜日	午前10時~11時
第二礼拝※中止	毎週日曜日	午後6時~7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分~7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2020年5月17日 第三主日礼拝 午前10時

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌395「主はガリラヤ湖の」 p. 634

【交読文】 No.55 ヨハネの福音書15章 p. 923

【賛美Ⅱ】 新聖歌325「歌いつつ歩まん」 p. 515

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル賛美「父なる神の愛」

【聖書朗読】 使徒の働き1章12節～14節(新約p. 208下段)

【聖書研究】 《屋上の間において》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所「使徒の働き1章12節～14節」

1:12 そこで、彼らはオリーブという山からエルサレムに帰った。この山はエルサレムの近くにあつて、安息日の道のりほどの距離であつた。

1:13 彼らは町にはいると、泊まっている屋上の上に上がった。この人々は、ペテロとヨハネとヤコブとアンデレ、ピリポとトマス、バルトロマイとマタイ、アルパヨの子ヤコブと熱心党员シモンとヤコブの子ユダであつた。

1:14 この人たちは、婦人たちやイエスの母マリヤ、およびイエスの兄弟たちとともに、みな心を合わせ、祈りに専念していた。

◎聖書研究と分かち合い

①安息日の道のりとは、距離としては何メートルですか。また、この帰り道は弟子たちにとって、どのようなものだったのでしょうか。

※民数記35章5節から、安息日歩行距離は決められた。(1キュビトは45cm)

35:5 町の外側に、町を真中として東側に二千キュビト、南側に二千キュビト、西側に二千キュビト、北側に二千キュビトを測れ。これが彼らの町々の放牧地である。

◎ルカの福音書24章50節～53節参照(新約p.156)

24:50 それから、イエスは、彼らをベタニヤまで連れて行き、手を上げて祝福された。

24:51 そして祝福しながら、彼らから離れて行かれた。

24:52 彼らは、非常な喜びを抱いてエルサレムに帰り、

24:53 いつも宮にいて神をほめたたえていた。

②「屋上の間」とは、具体的にどこの場所の家ですか。

◎マルコの福音書14章12節～16節参照(新約p.88)

種なしパンの祝いの第一日、すなわち、過越の小羊をほふる日に、弟子たちはイエスに言った。

「過越の食事をなさるのに、私たちは、どこへ行って用意をしましょうか。」

そこで、イエスは、弟子のうちふたりを送って、こう言われた。

「都にはいきなさい。そうすれば、水がめを運んでいる男に会うから、その人についていきなさい。そして、その人がはいつて行く家の主人に、『弟子たちと一緒に過越の食事をする、私しの客間はどこか、と先生が言っておられる。』と言いなさい。するとその主人が自分で、席が整って用意のできた二階の広間を見せてくれます。そこで私たちの為に用意をなさい。」弟子たちが出かけて行って、都にはいると、まさしくイエスの言われたとおりであった。

③ここで十一使徒の名前が出て来ますが、これは何を意味し、またルカは何を教えているのですか。次回に関連しています。

◎マルコの福音書6章7節～13節(新約p.69上段左側)を参照のこと。

◎先週のメッセージの概要【主イエス・キリストの昇天】

《イエス様は、弟子たちに二回に渡ってご自身の昇天の預言をされました。しかしその時は、彼らにはまったく想像も理解も出来ませんでした。

最初は、エルサレム神学校長ニコデモが、夜中に尋ねて来た時です。「だれも天に上った者はいません。しかし天から下った者はいます。モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子もまた上げられなければなりません。それは、信じる者がみな、永遠のいのちを持つ為です。」と言われ、次に、カペナウムの会堂で教えられた時です。その時、「命のパン」と「私の血は真の飲み物であり私の肉は真の食べ物」と言う霊的比喻を話されましたが、弟子たちの多くの者が、その言葉につまずいてしまいました。

イエス様は、「このことであなたがたはつまずくのか。それでは、もし人の子がもといた所に上るのを見たら、どうなるのか。」と言われたのです。

さて、オリーブ山において、主は弟子たちを祝福しつつ天に上って行かれます。主の姿が見えなくなっても、弟子たちは天を見上げています。

そこに二人の御使いが現われます。

「ガリラヤの人たち。なぜ天を見上げて立っているのですか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たときと同じ有様で、またおいでになります。」

これこそ、主イエス様の再臨の預言であり、確固たる約束なのです。ゼカリヤ書には、メシヤの再臨の預言が、次のように書き記されています。『その日、主の足は、エルサレムの東に面するオリーブ山の上に立つ。オリーブ山は、その真中で二つに裂け、東西に延びる非常に大きな谷ができる。私の神、主が来られる。すべての聖徒たちも主と共に来る。』と。

文字通り「すべての聖徒」が、主イエスと共に来る為には、その前に聖徒全員が召される必要があるはずです。よって、この次に成就する聖書の預言は、主イエス様の「空中再臨」であり、栄光の「携挙」なのです。》

◎お知らせ

※主日礼拝は、5月24日(日)・31日(日)は、引き続き各家庭にて行ないます。また聖書の学びと祈り会は、5月20日(水)・27日(水)も、各家庭にて行ないます。6月以降は、政府の自粛要請解除の状況しだいです。